

# 平成29年度 本巢市立真桑小学校学校関係者評価書

評価する内容	評価の観点	学校関係者による評価	H30学校改善の方向
<p>○目指す児童像を明確に描いているか。</p> <p>○「計画」「実践」「点検」「改善」の手順を確実に実施しているか。</p> <p>○「計画」「実践」「点検」「改善」の方法や計画は適切であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に沿って教育活動が進められているか。</li> <li>・実施した教育活動について適切に自己評価しているか。</li> <li>・評価後、成果と課題を明確にしているか。</li> <li>・教職員の評価以外に、保護者や児童による評価も取り入れているか。</li> <li>・評価内容に素早く対応し、速やかに対応しているか。</li> </ul>	<p>学習指導</p> <p>○子どもたちは、仲間の考えと比べて聞いたり、仲間に伝わるように話したりしているか。</p> <p>○子どもたちは、毎日家庭学習の目安以上の時間学習しているか。</p>	<p>◎学年の発達段階に応じて指導することや話型を示して具体的な学習方法を理解させて指導することで、「順序を表す言葉」「つなぎ言葉」を使って話したり順序立てて話したりする力が伸びてきた。</p> <p>◎仲間の発表について話すために、自分の考えとの相違点を考えながら聞く姿も見られるようになってきた。</p> <p>◎PTA主催の家庭学習向上の取り組みは、保護者の意識を高揚するために効果的であった。</p> <p>▲豊かな表現で話したり相手に伝えようと工夫して話したりする姿や、最後まで自信をもって話そうとする姿には弱さが見られる。</p> <p>▲ペア交流やグループ交流などの効果的な活用や交流の在り方を吟味する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の意見を主体的に聞き、つなげて話したり工夫して話したりすることのよさを伝えていく。指し示しながら話す姿や相手に問いかけながら話す姿など、相手を意識して話す姿を価値付けていく。</li> <li>・ペア交流やグループ交流など、どの子にも話す機会を作り、指導や評価の場とする。また、教師の発問を精選し、子ども自らが主体的に考える授業を創る。</li> <li>・家庭での生活リズムを見直し、児童が家庭学習に集中して取り組めるように環境を整えていく。また、保護者による意識の差を減らすために、家庭教育学級や学校便りなど、家庭教育の意義や在り方、実態や実例等を知らせていく場をもち、啓発していく。</li> </ul>
<p>○児童は目指す姿を具現しているか。</p>	<p>生徒指導</p> <p>○自分からすすんであいさつしているか。</p>	<p>◎通学班リーダー会や一斉下校時の振り返りでの指導が成果を出してきており、高学年のリーダー意識は高まっていると考えられる。</p> <p>◎顔を見て挨拶する姿が増えてきている。信頼関係が強くなってきている。</p> <p>▲保護者アンケートにおいてもあいさつし合う姿の弱さを指摘されており、あいさつの意味付けにおいて十分には子どもたちの心に深化していない。</p> <p>▲いつでも、どこでも、だれにでもを意識したあいさつができるよう、自分から意識できるようにしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつを学級経営の柱として位置付け、良い姿を具体的に示し、その姿の意味を価値付け継続的に指導していく。良いあいさつを紹介し、全校に広めていく。(放送やまくわうりカードで)また、通学班リーダー会や一斉下校時の振り返りで見届け認めていく。(頑張りの価値付け・あこがれをもたせる)</li> <li>・生活委員会やPTAによる「あいさつ運動」の継続により、相手に気持ち伝わるあいさつをする意識を高めていく。地域との連携を密にして、あいさつに関する情報を共有する。</li> </ul>
	<p>安全指導</p> <p>○予測される危険を意識して、安全な登下校をしているか。</p>	<p>◎「車や自転車が来ないか左右を確認して渡っています。」など交通安全に対する児童の意識は高い。</p> <p>◎班長を中心に協力して安全な登校を心がける姿が基本としてできている。</p> <p>▲登校においては、班長の働きかけ、地域の方の見守りによって安全な登校ができているが、下校時には、地域の方等に頼り、自分で判断して行動する姿が少ない。自分で考え、判断する力を付けていくようにしていきたい。</p> <p>▲飛び出しをするなどの行動があり、子どもたちの危険を予測する力が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団下校時、学年下校時を活用して、担当や担任が各班の現状を把握したり、ピンポイントで安全な登下校の指導をしたりしていく。</li> <li>・KYT担当を明確にし、月初めに毎月の指導内容を提案し、全校に安全な生活について放送で呼びかけ、各担任が、発達段階に応じた具体的な指導をしていく。</li> <li>・安全な生活について、家族全員で家庭での約束を決めたり、確認したりすること、家庭で習慣的に安全な生活について、語り、論していくことを保護者に啓発していく。</li> </ul>

◇学校評価の取組の方法についていただいたご意見

- ・来年度から新しく始めるコミュニティ・スクールにとって大切なのは、学校課題が明確にあるということである。よって課題をより明確にしておく必要がある。
- ・一人一人の子どもを長い目でとらえていく見方、考え方が大切である。
- ・中学校区でのコミュニティ・スクールはとても意義があり、義務教育を通して育てたい力を評価していくことはとてもよい。
- ・今まで大切にしてきたことは継続していけるようにする。